

令和7年度庄内北部定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日 時 | 令和7年12月24日 (水)

午後2時～3時40分

場 所 | 酒田市役所7階 703号室

出席委員 (8名)

小野英男	委員	富士直志	委員
石川修一	委員	鈴木武雄	委員
佐藤道子	委員	原田周子	委員
筒井義昭	委員	池田隆子	委員

1 開 会

(略)

2 あいさつ

(略)

3 協議

(1) 報告事項

第2期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの取組結果について

資料1に沿って事務局から説明。

○委員

No.6がん検診受診率について、変更後の令和6年度の算出方法を説明いただきたい。
また、酒田市の令和6年度がん検診受診率が全項目で最下位となったことについて、どのように分析しているか教えてほしい。

○健康課長

令和5年度までは、国民健康保険や後期高齢者医療保険加入者の該当者数を対象としていたが、令和6年度は、肺がん検診の場合、40歳以上の全住民が対象となった。しかし、市町では、職域検診受診者数は把握できないため、対象は増えたが、受診を把握できる住民の数は変わらないため、がん検診受診率が低下した。

また、酒田市のがん検診受診率は最下位だが、検診受診者数は横ばいである

○委員

現状のままだと、低い受診率のまま推移していく可能性があるが、分子となる受診者数の調査・把握はどのようにして進めるのか。

○健康課長

令和7年度に国から方針が示された。令和8年度から紙で自己申告を求めることとなる。いずれはDX化を進め、令和11年度からは、マイナポータル等も利用して電子的に把握する方向で取り組まれていく。

○委員

No. 31の森林病虫害等被害対策事業いわゆる松くい虫対策について、防除は伐倒、保全は植林しかないと思っている。予算の都合もあると思うが、発生スピードに対して追いついていないと思うが、この手立てでよいのか。

○農林水産課長

お話いただいたとおり、近年被害が爆発的に増えて追いつかないのが現状である。

これまでは、対策として防除を行ってきたが、防除では対応できない状況になっているため、森林の再生・造林も含めて進めていきたいと考えている。

遊佐町との連携だけでなく、他市町や山形県も含めてより広域的な体制を整えていきたい。

○委員

県や他市町とは、どのような連携をしているのか。

○農林水産課長

県と市町で、庄内海岸林松くい虫被害対策強化プロジェクト会議を開催し、被害状況を共有している。

11月28日の県知事視察の際には、県知事から急激な被害を踏まえて上位の会議を立ち上げたいと話があった。

また、庄内開発協議会や山形県が鈴木農林水産大臣、林野庁に要望活動をし、その結果、12月13日に鈴木農林水産大臣の現地視察が行われた。

なお、視察の際には、鈴木大臣から予算についても検討したいという話があった。

○委員

No. 34の山形新幹線庄内延伸について、現状を教えてください。

○企画調整課長

令和7年12月8日に庄内2市3町や最上8市町村、3商工会議所が山形県知事に要望活動を行った。要望活動に至った経緯は、令和7年6月県議会での梶原県議の山形新幹線庄内延伸に係る質問に対して、県知事から従来とは異なるやや前向きな答弁があり、地域で議論を活発にして盛り上げてもらいたいとの発言があり、それ以降、庄内2市3町や最上8市町村と首長レベルの協議や事務レベルの意見交換を重ねた結果、要望活動に至ったものである。

要望の際、知事からは、引き続き地域で盛り上げて大きなうねりをつくってもらいたいという発言があった。

過去に盛り上がりが下火になった経過があるが、引き続き運動を強めていきたい。

○委員

令和8年4月以降、それぞれの地域で議論して盛り上げていただきたい。

(2) 協議事項

第3期庄内北部定住自立圏共生ビジョンの改定案について

資料2に沿って事務局より説明。

○委員

地方創生における国の予算は、倍くらいになっているようなことを報道で聞いたが、第2期共生ビジョンと第3期共生ビジョンの予算はどうなっているか。

○企画調整課長

第3期共生ビジョンの事業は、第2期共生ビジョンからの継続事業がほとんどであるため、予算は大きく変わっていない。ただし、松くい虫対策など喫緊の課題がある場合は増えていく。

○委員

国の予算に変動はあるのか。また、今後、予算を多くもらえる可能性があるのか。

○企画調整課長

定住自立圏に取組によって、特別交付税として国の予算が措置されており、中心市では約8,500万円、近隣町では約1,800万円の上限がある。地方創生の予算は増えていても定住自立圏の取組に関する上限額は増額されてない。

○委員

p.39の婚活支援事業の拡大について、予算や事業を増やしても成婚件数に大きな増加はないということによいか。

○共生社会課長

予算や事業を増やしても成婚件数に大きな増加はない。酒田市では、結婚サポートセンターを設置し支援しているが、登録者は2対1程度の割合で男性が多い。引き合わせをしたいが、女性の登録者が少なく、なかなか叶っていない状況である。

(3) その他

○委員

新規高卒者の県内就職率が目標に近い実績となったことは、酒田市を含め関係市町村や県の努力が実った成果だと思う。

新規高卒者が地元に残ることは、人口減少の大きな歯止めになると思う。今後も手を緩めずに県と連携して地元就職にむけて取り組んでほしい。

○商工港湾課産業振興主幹

酒田市では、女性活躍の視点から、女性が働きやすい企業の指標である「えるぼし」認定が取得できるような職場環境への改善などを支援している。

企業としても、より若者に選ばれる企業になれるよう取り組んでいただきつつ、酒田市としても様々な制度等で支援していきたい。

○委員

森林の環境保全について、三川町には防風林や大きな松林はないが、地域の神社の境内や小学校などの松も枯れている。共生ビジョンで連携している酒田市遊佐町以外の町の平野部でも問題が起きているため、課題を共有し進めていただきたい。

○三川町 企画調整課長

いろり火の里周辺の松も松くい虫被害を受けている。町民への安全や施設への被害防止など、緊急で対応が必要なものについては、対応の準備を進めている。

三川町には防砂林や防風林はないが、県等と連携しながら、対応を考えていきたい。

○委員

神社はどこかの自治会に属していると思うがその場合はどうなるか。

○三川町 企画調整課長

それぞれの神社には氏子がいると思うが、町内会所有の土地にある松であれば、三川町協働のまちづくり推進事業の補助金での対応も検討する必要があると考えている。

○委員

公共交通について、JRが通っていない三川町ではバスが重要な交通手段である。現在は、鶴岡市と酒田市に路線バスで行くことができるが、なくなってしまうのではないかと危機感を持っている。

また、羽越本線の赤字が日本一という報道もあるため、山形新幹線庄内延伸よりも羽越本線を継続させる動きもやっつけていかなければいけないと思っている。

○都市デザイン課長

庄内交通(株)が運行する鶴岡三川線、三川酒田線については、県庄内総合支庁が中心になり、維持していくための計画がこの度認定され、令和12年度まで維持できる見込みで認識している。ただし、令和13年度以降は引き続き課題になると考えている。

○企画調整課長

羽越本線については、庄内地域がまとまって利用促進と高速化の運動をしている。

鉄道で庄内と首都圏を往来する場合、羽越本線から上越新幹線のルートがあり、重要性は認識しているため、引き続き取り組んでいきたい。

そのようななか、山形新幹線庄内延伸は、首都圏へのアクセスだけでなく、庄内と山形市などとの交流という意味も大きいと思っている。

陸羽西線は、令和8年1月16日に列車運行が再開されるが、利用客が減っており、廃線となる危機感を強く持っているため、利用促進と併せて思い切った再生も必要だと思っている。

○委員

ファミリーサポートセンターの相互（広域）利用について、会員のニーズが減っているなか、今後のファミリーサポートセンターの位置づけと取組を教えてください。

○保育こども園課長

ファミリーサポートセンターは、利用を希望して登録する依頼会員と協力を希望して登録する提供会員の双方で成り立っているが、提供会員の高齢化や無資格で子どもを預かることを現代的な問題から登録を躊躇するなど様々な課題に直面している。

ファミリーサポートセンターの利用拡大としては、低所得者の利用料軽減措置や障がいを持つ子どもが、ファミリーサポートセンターを利用できなくなると生活に支障をきたす場合に、中学生でも継続して利用できる制度拡充などを行っている。

保護者からは、スマホで手続きができるようなものも求められていると思っているため、ファミリーサポートセンターに限らない手立ても含めて検討したい。

○委員

松枯れ被害について、近年の猛暑の影響を受け危機的な状況である。松以外の樹種を含めた針葉・広葉混合林を視野に入れた取組が大切と考えている。

また、地域公共交通ネットワークについて、遊佐町と酒田市を行き来できる交通機関は電車とタクシーしかなく、高齢の遊佐町民は通院や買い物に不便が生じているため、第3期共生ビジョンに遊佐酒田間のバス路線を加えていただきたい。

さらに、圏域観光物産事業について、遊佐町では、日本海沿岸東北自動車道路の遊佐象潟間開通に合わせて遊佐インター隣接地に遊佐パーキングエリアタウンを建設予定であるため、北庄内の魅力を発信する役割を担う重要なツールとして活用願いたい。

○農林水産課長

混交林化の重要性は認識しており、天然更新も含めて広葉樹を活用していきたい。

○都市デザイン課長

圏域を超えた移動手段については、住民からの要望が高い項目と思っている。

高齢者世帯の割合が増えているなか、行政としてどのように生活の足を確保していくか、各市町や庄内総合支庁と引き続き議論を継続していきたい。

○交流観光課長

遊佐パーキングエリアは、鳥海山飛鳥ジオパークの拠点施設としても活用されていくと聞いている。

鳥海山飛鳥ジオパークは、ユネスコ世界ジオパーク認定を受けるために取組を重ねており、遊佐町、秋田県にかほ市、由利本荘市の協議会で進めている。

今後、協議会で遊佐パーキングエリアの活用も検討していくと思う。

○委員

安心して産休が取れるような社会体制をつくってほしい。定住圏の中で決められることではないが、実務者の立場からの意見として上にあげほしい。

また、クルーズ船寄港時の出店について、クルーズ船乗客は、下船後すぐにバスで目的地に向かうことを想定しているが、どの程度の経済効果があるか知りたい。

さらに、東京に行く場合、できるだけ羽越本線を利用しているが、強風時は運休となり、飛行機も欠航となる。気象条件を考えると内陸を通過して1本で首都圏に行くことができる路線の確保が必要だと思う。

○商工港湾課産業振興主幹

休業制度に係る給与補償については、財源の問題も含めて国の制度など大きなところでの議論となるため、上に意見が届くような対応を検討させていただきたい。

また、酒田市では、近年、男性育休への支援にも取り組んでおり、給与補償だけでなく子どもを産みやすい職場環境づくりなどを制度面から支援していきたい。

○交流観光課長

物産展の売上げは、クルーズ船の規模で変わる。数百名単位の富裕層向けクルーズ船に比べ、1,000人超規模のクルーズ船の方が売上げは高く、客層に大きな関係はない。

○企画調整課長

羽越本線の安定輸送については、過去の脱線事故を踏まえて、風に対する規制が強化されてきており、強風時の運休は仕方がないと思っている。

また、近年では、AIを活用した突風探知の的中率が約8割になっているという報道もされている。

羽越本線運休時の代替としても、陸羽西線を活用した山形新幹線庄内延伸は必要だと思っている、検討を進めていきたい。

なお、JRに対する羽越本線の安定輸送についても引き続き声を上げていきたい。

○委員

第3期共生ビジョンにおける文化芸術に関する事業について、2項目が廃止となり、生涯学習・社会教育事業の相互利用のみが継続となり、文化芸術に関する項目が1つとなり残念である。

また、中学生の文化活動における地域クラブ活動への移行について、運動部活動に比べて受け皿が少なく、部員減少に伴い廃部となっている学校がある実態から、1つの市町だけではなく広域で行うべきと思っている。

子どもたち自身が好きな活動ができるよう頑張ってもらいたい。

○文化政策課長

文化振興事業の推進は、各市町のホールで実施する事業について広域的に連携するものであった。

連携して行っているイベントはなく、それぞれのホールの取組となっているが、情報共有等は行っており、全く連携していないということではない。

また、文化財の保護および利活用推進事業は、酒田市と遊佐町がそれぞれで実施する民俗芸能団体の公演の取組であったが、民俗芸能団体間の相互交流がないなどの理由で廃止とした。

しかし、今年度開催した酒田市の民俗芸能フェスティバルには遊佐町の団体からも参加いただいている状況でもある。

部活動の地域移行について、酒田市では、学校教育課を中心に運動部活動の地域移行を先行して議論している。

文化活動はスポーツと同じ考え方にはないことや活動場所・方法など様々な課題があることは認識しており、広域での活動は、今後議論になっていくと思う。

4 その他

○事務局

今後、本日の議事録について、各委員に郵送させていただくので確認をお願いしたい。
確認いただいた後で、酒田市ホームページに公開する予定である。

5 閉 会

(略)